

## 令和2年度 第1回小松島市総合教育会議 議事録

1. 日 時 令和2年11月30日（月）午前9時30分～午前10時20分
2. 場 所 小松島市防災倉庫2階会議室
3. 出席者 中山市長  
森本教育委員，眞井教育委員，渡部教育委員，東根教育委員，小野寺教育長
4. 事務局 西照総務部長，芳賀総務部参事秘書政策課長事務取扱，勢井教育次長，  
花岡教育政策課長，吉原学校課長，寺橋生涯学習課長，西山学校課主幹，  
立川秘書政策課課長補佐，河口教育政策課係長，蔵本秘書政策係長
5. 概 要
  - (1) 開会
  - (2) 協議報告事項
    - ①小松島市教育大綱の改正について
    - ②学校再編意見聴取会会議録の報告について
  - (3) 閉会
6. 議事の経過 別紙のとおり

(芳賀秘書政策課長) それでは令和2年度第1回小松島市総合教育会議を開催させていただきます。開催にあたりまして、中山市長からご挨拶を頂きたいと存じます。よろしくお願ひいたします。

(中山市長) みなさま、改めましておはようございます。本日は、大変お忙しい中にも関わりませず小松島市総合教育会議にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。この総合教育会議は、市長と教育委員会が意思疎通を深め、教育行政の推進を図ることを目的として実施しております。さて、本年度の総合教育会議では、「小松島市教育大綱の改正」と「学校再編意見聴取会の会議録」について報告をさせていただきたいと思ひます。教育大綱は、本市の教育、学術、文化の振興に関する総合的な施策について、本市の実情に沿った目標や基本的な方針を定めるものであります。また、学校再編についてであります。10月13日に小松島中学校、19日には市立体育館で意見聴取会を開催させていただきました。また、PTAや保護者の方々などより多くの方々の率直なご意見をお聞かせいただくため、各小学校や保育所を教育委員会とともに回らせていただいております。子どもたちの成長にとって望ましい学校教育環境を目指し、市の教育がより良い方向に向かうよう、教育大綱を定めるとともに、学校再編に取り組んでまいりたいと存じますので、委員の皆さま方におかれましては、忌憚のないご意見を賜りますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。結びになりますが、本日の総合教育会議が実り多き会議となりますことを祈念いたしまして、簡単ではございますが、私の挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

(芳賀秘書政策課長) ありがとうございます。以後は、着座にて説明をお願いいたしたいと存じます。それでは、協議に先立ちまして、配布資料の確認をお願いいたします。本日の資料といたしましては、資料1・小松島市教育大綱、それから資料2・学校再編に関する意見聴取会の記録、ということお手元にございますでしょうか。それでは本日の議題に入りたいと存じます。総合教育会議につきましては、設置要綱に規定されておりますとおり、主催が市長でございますので、以降の会議の進行を市長にお願いしたいと存じます。

(中山市長) それでは、これからは着座にて進めたいと思ひます。まず、会議次第にありますように、協議報告事項の1つ目、「小松島市教育大綱の改正について」現在の教育大綱の状況について教育長よりご説明願ひます。

(小野寺教育長) それではお手元にある小松島市教育大綱をお出しただけたらと思ひます。現在の小松島市教育大綱は、平成27年8月に策定をいたしました。先ほどの市長の話の中にもございましたけれども、教育大綱策定の背景と趣旨という一枚目の中段に書かれていますところですが、平成27年に地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正がございました。その中で、地方公共団体の首長、いわゆる市長と教育委員会を構成員とする総合教育会議すなわち本会議が設置をされました。その総合教育会議の中において、市長と教育委員会の連携を密にすることで大綱が定められることが求められた、という風

な流れでございます。要するに、地方公共団体の長が教育大綱を策定することが義務となっているということでございます。また、大綱の内容についてですが、本市の様々な状況を踏まえまして、先ほどの市長の言葉にもございましたが、教育、学術、および文化の振興に関する総合的な施策について、その目標や施策の根本となる方針を定めるものでございます。裏返して申しますと、細かな施策を策定するものではないという風にも言い換えることができます。それで今回、現行の大綱でございますけれども、資料の右側に基本理念として「市民一人ひとりが輝く教育の振興と創造」、そして基本目標として「郷土に誇りを持ち一人ひとりの人権を尊重する創造性豊かで輝く人づくり」という風な理念や目標に基づきまして、資料の裏に4つの重点目標としまして、教育施策が4点書かれております。1点目が「家庭教育の充実と地域との連携」でございます。2点目が「就学前教育の充実」、3点目が「生きる力」をはぐくむ学校教育の推進」、4点目が「生涯学習文化の創造」、という4つの重点目標で構成がされております。ただ、この理念にしても、目標にしても、4つの重点目標にしても、第1期の小松島市教育振興基本計画と同じでございます。内容を見ていただいてもわかりますように、具体的に学校教育や社会教育に踏み込んだもので、先ほど申しました第1期の教育振興基本計画に準じたもので構成がされている、という状況でございます。また、その第1期の小松島市教育振興基本計画の策定は、実は平成22年になります。ということは、この大綱のベースになっている小松島市教育振興基本計画の策定から10年が経過をしている、ということでございます。それで現行の教育大綱は、冒頭にも申しましたとおり、平成27年8月に策定され、5年が経過しております。それで、期間につきましては、平成27年8月に策定したときには明記をしておりません。平成27年8月に策定したのですが、何年間というくりを作っていない、という状況で現行は動いております。そういった中で、文部科学省からは、大綱の期限は4年から5年程度を想定している、という形で見解がでております。その大綱については、この総合教育会議の協議の中で、教育振興基本計画を大綱として変えていくことも可能である、という風な見解もでております。ただ、今年度市長も新たに中山市長になりまして、策定からの年数も5年を経過しているという状況の中で、現状のまま大綱を継続していくのか、もしくは、大綱を教育振興基本計画に変えて位置付けていくのか、また新たに本総合教育会議において協議をし改定を図っていくのか、ということについて、本会議で協議決定を行っていく必要があるのではないかと考えております。以上でございます。

(中山市長) はい、ありがとうございます。ただいまご説明にあったとおりでございます。この小松島市教育大綱は平成27年8月に策定されております。とは申しましても、基本になるものが平成22年の小松島市教育振興基本計画である、ということも伺いました。皆さまご承知のとおり、コロナという国難の中、今後、with コロナになるのか after コロナになるのかはわかりませんが、新しい生活様式とかGIGAスクール、また根底にあるのが少子化による子どもたちの減少ということで、時代は10年前とは大きく変わってきております。そういったことに鑑みまして、この教育大綱というのは本総合教育会議の決定により変えることができる、という風に伺っておりますので、私といたしましては、今の時代に合った教育大綱を再度見

直すべきではないかと思っておりますが、皆さまのお考えをお聞かせいただきたいと思います。それでは、森本委員いかがでしょうか。

(森本委員) この教育大綱が平成27年にできた際に、私も教育委員の一員として審議させていただいたのですが、今このように読み返してみますと、少し古いなあという感じがいたします。何年振りかに見たのですが、やはり古い感じがいたしております。これを策定した時代というのは、小松島市が財政難で非常に大変であったころだと思います。そのころに比べ、今は財政的にも少し余裕があったりもするのかなあとも思いますし、教育全体を見る場としても、10年前とは大きく変わっていると思います。インターネットやIT関連の言葉なども飛び交う時代である中、古さを感じますので、改正する時期ではないかと思えます。

(眞井委員) やはり今の情勢といいますのは、10年経ちますと、パソコンもそうですが2年3年経ちますと新しいものがどんどん出てきて、古いものではなかなか対応できないということになり、教育も同じで、小松島市でも特に新しい道路ができたり、今のコロナ禍における衛生的なことですか、5年10年で全く違うと思います。ですから、やはり定期的に見直しをして変えていく、というのは必要なことではないかと思えます。

(渡部委員) 私も同じように、本当に今のコロナ禍で様々な面で形が変わってきております。それに即したような形でこの政策が打ち出されていくわけですから、元になる部分については、今の時代に沿ったものに変えるべきだと思います。以上です。

(東根委員) 失礼いたします。10年前と言いますと私が退職する少し前だったと思います。そのころ、これを見たときには違和感はなかったように感じたのを覚えております。そのような中、先ほど3人の委員さんがおっしゃられました様に、時代も変わっておりますし、今年度は特にコロナ禍ということで、先のわかりにくい時代に進んでおります。そういうことで、これを良い機会ととらえ、変更をしていけばよいかなあと考えております。

(小野寺教育長) 先ほどの私からの説明に関係する部分が多いのですが、委員の皆さまがおっしゃっていたように、本当に社会が大きく変化をしております。私も学校の先生方にお話しをする時に、情報化・グローバル化・人工知能、という風なキーワードというのは避けては通れない、こういう風な部分においては10年前とは大きく違っております。当然、本市の教育を取り巻く環境として、GIGAスクールはもちろん、この後の話題にもなりますけれども小学校の再編、ないしは大人世代における公民館活動の運営・充実、など、変化を求められている部分が多いと思います。ですから、そういった状況を考えますと、その指標となる大綱というものはやはり時代に即したものが良いのではないかと考えます。特に、先ほどの説明にもありましたが、大綱は総合的な推進のもので、あまり細かな内容には触れなくてよいと思います。裏返しに言いますと、大綱は、小松島市の人づくりないしは地方創生の大きな視点で、基本方針を定めていくべきではないのかなと思います。それから、教

育委員会で作成をしております教育振興基本計画も、次年度に改定に取りかかる予定でございます。そういった流れから考えても、現時点で、大綱の大きなくりの部分を決めていただいて、次年度以降教育振興基本計画との整合性を図っていく、という意味においても良い時期ではないのかなと考えております。以上でございます。

(中山市長) はい、ありがとうございました。様々なご意見をいただきまして、委員の皆さまは、5年前の平成27年に策定されたものは少し古い、ということで時代に即したものに見直すべきではないかというご意見だったと認識しております。今回改めて新たな教育大綱にするということによろしいでしょうか。

(4名の各委員) はい。

(中山市長) ありがとうございます。それでは、新たな小松島市教育大綱を策定する方向でお願いできればと思いますので、次回以降の総合教育会議の議題としたいと思います。続きまして、次の議題の「学校再編意見聴取会会議録の報告について」の説明を教育政策課にお願いいたします。

(花岡教育政策課長) 教育政策課でございます。小学校の再編に関しましては、市民の意見を幅広くお聞きするため、意見の聴取を行っているところでございます。市長からの説明にもございましたが、既に小松島中学校の体育館と市立体育館におきまして、意見聴取会を開催いたしました。このほか、校長会や副校長・教頭会・幼稚園などの既存の会議にお邪魔させていただき、ご意見をいただきました。現在は、各小学校で開催されているPTA役員会に参加させていただき、ご意見を頂戴しているところでございますが、学校の都合によっては、来年2月ごろまで開催予定のところもございます。先日の定例教育委員会でもご説明をさせていただきましたが、11月初旬までに行った意見を聴く会につきましては、小学校校長会や副校長会・教頭会・幼稚園の先生方が37名、小学校のPTA役員で63名、小松島中学校と市立体育館に参加した市民の方が42名、合計で142名の参加がございました。意見の内容につきましては、「学校再編に関する意見聴取会の記録」というもので、主に「通学」「まちづくり」「防災」「学校規模」「施設」「時期を含めた進め方」などの観点からご意見をいただいております。それでは、別紙の「学校再編に関する意見聴取会の記録」をご覧くださいければと思います。こちらは、8月26日の校長会から11月9日のPTAの会長会までの議事録で、主な意見を抜粋いたしております。まず、1ページ目の通学に関しましては、一番上の後半部分の意見でございますが、「通学に関しても、もうちょっと具体的にしていたら賛同を得られたのではないか」というようなご意見、それから下から3つ目になりますが、「やはり一番は、その時にその小学校に入る小松島市のすべての子どもたちの通学の保障、必ず安全に安心して毎日通える状況にしなければならぬ」というようなご意見、また跡地について上から3つ目のご意見ですが「統合されて、その後取り壊しになった後の土地の利用活用の中で、行政側の方で何か

方針があるのであれば、それを成案にする前に、地域住民に周知してほしい」ですとか、その下のご意見「11校を4校に削減するのであれば、先に廃校になる7校の使用目的を考えるべきではないだろうか」というようなご意見でございます。続いて次のページをお願いいたします。施設に関するご意見でございますが、上から6つ目になりますが、「小学校施設はだいぶ老朽化しているので、施設を新しくするという意味で、学校再編は必ず必要だと思います。」というご意見がございます。次のページにはまちづくりについてでございますが、上から2つ目、「反対している人は地域の灯が消えることについて反対している、賛成している人は子どもたちの教育を良くしたい、というところで賛成をしており、まちづくりの一環としての学校再編でないと非常に厳しいと感じた」というご意見、また下から5つ目になりますが、「教育委員会だけで議論できる問題ではない、トータルの中で議論しないとこの問題の出口は見つからないのではないか」というご意見、それから下から3つ目「2030年までに4校というのは、流石にちょっと急ぎすぎではないか、2040年、50年、60年という長い時間のターンで考え、小学校とか学校施設だけではなく色んな公共施設も含めてまちづくりを考えていこう」というご意見、それから次のページの上から3つ目ですが、「自分は再編には反対ではないのですが、再編するなら2校か3校くらいでできたらなという考えである」というご意見、また下から2つ目ですが、「段階的に、というのは良いのではないか」というご意見がございます。また、最後のページですが、学校規模というようなところでは、下から4つ目の後半部分の意見ですが、「学校も大人数の良さもあるし、小さい人数で良いところもあるので、それぞれの良さを残していってほしい」というご意見、それから下から3つ目のご意見、「児童が集団生活の中で多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通して、一人ひとりの資質や能力を伸ばしていく必要があると考え、より良い教育環境を整えるためにも学校再編は必要だと考えている」というようなご意見がございました。走り走りでございますが、「学校再編に関する意見聴取会の記録」についての説明はこれで終わらせていただきます。

(中山市長) はい、ありがとうございます。ただいま、報告がありましたように、今までいろいろな場所に行き、様々な方から意見を聴取した次第ではございますが、まだまだ多くの方からご意見を聴取すべきだと考えておまして、今後も様々な場に出向いて、保護者や先生方から貴重な忌憚のないご意見をお伺いしたいと思っております。それでは、ただ今の説明につきまして、委員の皆さまの中で、何か感想や意見がありましたら教えていただきたいと思いますので、森本委員の方からお願いいたします。よろしいでしょうか。

(森本委員) 11月の定例の教育会議で同じような説明を聞かせていただいたのですが、そのあと資料を詳しく見させていただいておまして、私自身、今まで教育委員を長くしているのですが、中学校の再編・小学校の再編と二度にわたって進めてきたのですが、私自身、子どもの教育だけ、という観点でした。子どもをいかに教育していくか、育てていくか、というところでございました。ところが、この中で市民一般の大勢のご意見を見ておきますと、まちづくりの視点というのがでてきます。ですから、教育というのも小松島市という街全体で考え

ていかなければならないと思いました。子どものことだけではなくて、街全体の小さな子どもたちから老人の方々に至るまでのことを考えたうえでの学校教育でなければならないと感じています。そういった視点がでてきておりますので、私自身の頭の中も新たな考え方が満ちてきているところでございます。以上となります。

(真井委員) この資料を見させていただいたのですが、やはり一番気になるのが、通学に関して非常に不安を感じている保護者の方が多いということをととも感じます。私も近所の方と話しをする機会があったのですが、南小松島に私の近所の子たちは通うことになるのですが、遠いということで不安を感じている方が多いと思います。20年後30年後のことを考えると、子どもの数も少なくなるので学校の数が減るのは仕方がないことかなと理解はされているのですが、やはり問題となってくるのは通学だと思います。以前、小松島とは違う市なのですが、私が保育園の保護者会長をしていた時によく聞いた意見として、学校の送り迎えの際に近所の方が、車が邪魔になるのでやめてほしいとか、渋滞で普段の車が通れなくなるので何とかしてほしい、という意見が多くあり、運営に支障があったという話を聞いたことがあります。そのあたりの渋滞などに関することは何か想定されているのかどうか、対策を考えられているのかどうか気がなりました。

(渡部委員) 初めて再編の話しが持ち上がった時に、私としては同じ作るのであれば、例えばそれぞれの中学校に一つずつの小学校で2校にして、ほとんど40年近くになると思う体育館については老朽化しているので、そのあとに南中学校に持っていき、そして小松島中学校の近くに敷地ができれば、道路も整備できておりますし、そういった考えで始めは2校でもいいのかなと思いましたが、その後4校案が出されたときに、なるほど、子育てをされた方々のお話を伺うと、小学校というのは徒歩で通えるということ、現実において一番理想的なことなのだとということに納得をいたしました。一市民のまま何もわからないままに考えるのと、今回市長さん、こういった形でご意見をお伺いして回っておられるということは、私のような一市民としての考えだけにいる者に丁寧な説明をしていくと、なるほどと思う部分がたくさんできて、今までにない、多くの人からの意見を聞くということはそのなりの気づきがたくさんあって、より良い学校再編ができるのではないかと思います。また、やはり財政的な面が伴わないと絶対に実現しないことなので、学校がそれぞれの学校を単独で建てる場合と、統合した場合との経費面において、きちんとできるのであれば、できる限り早い目にできればと思います。あとは、建築費用とかを国の方が補填してくれるのがいつまでかなどの期限の面においても心配しているところもございます。そういった部分も分かればと思います。

(東根委員) 失礼いたします。私が勤務していたころには環境が人を造る、というようなことをよく言われていたように思います。新任当時は、校舎が汚くても掃除を一生懸命すればきれいになるから、ということで先生方からも一生懸命にお掃除をすればよい、という教えがありました。しかし時代の流れとともに、昔は学校が一番きれいで家庭の方はまだ追いついてな

かったですが、今の時代は、家庭が随分ときれいになっていますし、それに伴うことが行われていると思います。私は、今年度学校訪問で学校を3校見せていただきました。それ以前にも何校か見せていただいたのですが、その中で、毎年、雨漏りがするとか特にここ2、3年は台風の影響で仕方がないことなのですが、そういったことが多々ありますので、資料の施設のページにも書かれてありますようなことは私も納得しております。そういったことから、前々から再編についても必要なことであるということは感じておりますが、財政面的なことをございます。私が管理職のころは財政が厳しい時代でしたので、色々とあっても要望をしにくいかなと言うこともありました。そして、自分の手で直せるものは直しましょうと職員に伝えたり、小松島中学校でスロープを作った際も自分たちで作ったということも思い出されますが、老朽化については止めることができないなと思っております。市長さんも大変であろうと思いますが、どうぞよろしく願いいたします。以上です。

(小野寺教育長) はい。学校再編の意見聴取会の方に市長と一緒に参加をさせていただいております。その中で、昨年度各小学校区を回った説明会と準じた内容も多いです。それを考えた場合にまだまだ十分にご理解をいただけてない部分も多いのかなあと感じております。それで、委員の方も何人かおっしゃられておりましたが、老朽化の問題であるとか財政の問題であるとか、ないしは通学の道路の問題などが様々な形で意見として出てくるわけでございますけれども、昨年説明会の中で委員会としてはできる限り答弁をさせていただいたのですが、明確にお答えができなかった部分も多々ございました。また、今後協議を行い決定をしていく、という風な先送りの説明も多かったと思います。その背景には、エヴィデンス、すなわち科学的根拠の部分が明確ではなかったのかなと思いました。より科学的根拠でありますとか専門的な見地でありますとか、そういう風なものに基づいた市民へのご説明が必要であったのかなということを、意見聴取会で各ご意見を伺うたびに感じております。その中には、当然先ほど申しましたように、学校というのは教育だけではなく、まちづくりの視点という内容が必要になってくる、ないしは教育の内容につきましても、例えば学校規模でありますとか校区でありますとか、小中一貫教育ですとか、キーワードとしては出てくるのですが、それに対する説明段階において今後の委員会で協議を行っていきます、という風なご回答に終始する、という部分に関しては、もう少し踏み込んだ見解、すなわちこういった学校規模の学校を作っていきます、メリット・デメリットはこのようなことがあります、という部分でももう少し踏み込んだ見解が必要なのではないのかなという風に感じております。以上でございます。

(中山市長) 様々なご意見をいただきありがとうございます。まず、森本委員からは、今後は教育だけではなくまちづくりの視点からも考えていくべきではないかということでした。また、眞井委員からは、通学の距離の問題や渋滞対策はどうなるのかということでもございました。渡部委員からは、丁寧な説明、それにより気づきを活かして考えていくべきだと。また、施設整備には財政が出動しなければならないということで、国の補助金はどのようにしているのか、というご意見でした。また、東根委員からは、まずはもっと教育環境を考えていく



べきではないかと、老朽化等についてもどのように向き合っていくのか、というようなご意見をいただきました。また、教育長からは、専門的見地からの説明をしっかりと行っていくべきであり、また学校規模に関することも説明をしていかなければならないのではないかと、というようなご意見をいただきました。以上のことについて、事務局から説明できる部分がありましたらお願いいたします。

(花岡教育政策課長) まず、森本委員さんからまちづくりの視点からのご意見をいただいておりますが、確かに教育委員会だけでは決めきれないところもたくさんございまして、極力連携をしていかなければならないと考えており、そのためには、市長部局との協議を設けていかなければならないと考えております。また、眞井委員さんの交通に関しましては、通学のことでございますが、委員さんもおっしゃいましたように南校の朝夕の交通量が非常に多くなっており交通渋滞がどうなるのだろうかといったご意見をいただきました。他市の視察等も行ってありますが、その学校では一例として敷地内を一時的にロータリー内にバスが入ってこられるような施設整備を行っているとか、少し道幅を広げるとか、そのあたりのことも考えて渋滞の解消等について進めていかなければならないのかなと考えております。また、渡部委員さんからの補助金のことでございますが、文部科学省からの補助金に関しましては、学校を統合する場合については2分の1の補助をいただけるということでございます。そのままの建て替えとなりますと3分の1の補助をいただけるということになり、補助率が変わってくるということでございますので、そのようなことも考慮に入れながら検討をしていかなければならないのではないかと考えております。また、東根委員さんからは施設に関してのトイレの古さや繰り返し発生する雨漏りについてのご指摘があり、快適な環境で子どもたちに学習をさせてあげたい、という想いを述べられた方もいらっしゃいました。確かに、古く老朽化している施設も多いかと思いますが、逆に比較的新しくまだ使用できそうな施設もあり、市民の皆さまの中からは、それをできる限り使用してはどうか、というご意見もありました。事務局としては、以上でございます。

(中山市長) はい、ありがとうございます。ただいまの説明にありましたとおり、多岐多様な様々な分野に関係する問題であると考えておりまして、今までのように教育委員会だけに任せるということでは、解決できない部分というもございまして、我々市長部局も含め市役所が一丸となって取り組んでいかなければならないと思っておりますが、それでも足りない部分があると思います。例えば、根拠となる専門的な分野の方たちの様々なご意見も取り入れていくべきだと思っておりますので、その件については、皆さまいかがお考えでしょうか。例えば、外部委員会を設置するべきだというようなことについてはいかがでしょうか。

(森本委員) はい。学校を再編もしくは統合していく際に、なかなか難しいことではありますが、私たちが学校の現場にいる際も管理職になれば自身の学校をどうしていくかということで、そういった教育が進んでいる学校を訪れて視察に伺うとか、その分野の専門家に意見を聞いてみるとかというような手法で勉強をしてきましたけれども、こういった学校再編を行う場合に

も、学校再編に取り組むことで進んだ地域・うまくいった地域があると思うんです。また、失敗した地域・効果がなかなか上がらなかった、街が衰退した、という例もあろうかと思えます。そういったことをよく知っている専門家、それを分析していくというのは、やはり専門家でないで分析できないと思えます。こういったことを実施したから成功に結び付いた、また失敗した、という風な私たちにはない知識や視点で切り込んでいただけるのではないかと思います。

(眞井委員) これは、教育委員会だけでは対応できない問題もたくさんあると思えます。たとえば、交通渋滞に関して、管轄は教育委員会ではなく警察になるのかな、という風になってくると思えますので、専門家の方の意見をきちんと聞いて進めていく、というのがやはり大事だと思います。

(渡部委員) たくさん市民の声を聴いて、それをまとめて専門家をお願いをして、再度それを市民に返していくということをしていくと、より納得してもらいやすいのではないかと思います。例えば、子どもたちで喧嘩をしたときなども、こちらが考えて指摘をし、結論を出してしまうとまったく解決にはならないということがございますように、市民の声を聴いて言うべきことは言っていくという対応でやっていくと納得が得られやすいのではないかと思います。ですから、たくさん意見をお伺いして、それを専門家に託して、できることとできないことがあり、こうなりました、ということで進めていくと納得を得られると思えます。以上です。

(東根委員) 失礼します。渡部委員さんから市民の声を、ということがありまして今思い出したことがあります。小松島中学校に校舎を設置するときに、小松島中学校については、小松島中学校だけの校舎ですから、先生方が授業をしながら、このような学校であれば勤務がしやすいですとか、研究大会に行った際にはこのような学校があった、とかいったことを検討する会議を何回か開いて、私たち自身も新しい校舎ができるのであれば、子どもたちが優しくなるように校舎をアール状にすればどうだろうか、といったことを提案しましたら聞き入れていただいた、ということもございました。ですから、先生方の意見ですとか市民の方のご意見も大切なのですが、やはり専門家の意見が大切になってくると思えます。森本委員さんもおっしゃってました視察も大事だと思います。以上、経験上のことを申し述べさせていただきました。

(小野寺教育長) 私も各委員さんのご意見と同様でございまして、やはり科学的な根拠であるとか専門的な見地が必要ではないのかなと感じます。また、委員会といたしましても先ほどの森本委員さんのお話しにもあったように、より研究を進めて踏み込んだ学校運営について検討し、市民の方にお示しできるようにしていかなければいけないと思えます。そのためには、大学の先生方ですとか、そういった方の意見をいただくということも大切なのではないのかなと感じます。それが市民の皆さま方への十分なお説明になっていくのではないのかなと考えております。

(中山市長) はい、ありがとうございました。ただいま、委員の皆さま全員が、やはり専門家の意見を聞くべきだということだったかと思しますので、今後我々に加えまして、専門家の委員会といったものを立ち上げていくべき必要があると考えておりますので、そういった方向でよろしいでしょうか。

(4名の各委員) はい。

(中山市長) ありがとうございます。今、学校再編といった大きな課題に直面しているわけでございます。この春に4校案という形でお示しをして、実施計画案ということで進めておりましたけれども、市議会等からの見直しをしたほうがよいのではないかのご意見もあり、市民の皆さま方からのご意見も多くありましたことから、今は一時中断をしております、意見聴取会や今回の総合教育会議を行っております。今後は、様々な説明会も実施していくつもりでございます。やはり、色々な意見聴取会の中でお話しを聴く上において説明不足といったこともありましたので、そういったことのないようにしっかりと説明をしていきたいと考えております。そして、大所高所から、小松島市の将来を担ってくれる子どもたちに対して何が一番良いのか、ということをしかりと見極めながら長期ビジョンにおいての小松島市の学校教育の在り方、そしてまちづくりという見地から、しっかりとこのビジョンを進めてまいりたいと考えておりますので、今後も皆さま方におかれましては、様々なご意見を忌憚なくいただきたいと思っておりますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。それでは、今後は事務局の方に司会を戻しますのでお願いいたします。

(芳賀秘書政策課長) はい、本日は教育委員の皆さま、誠にありがとうございました。本日の会議の議事録につきましては、こののち事務局で作成をいたしまして、決裁を得たのち、市公式ホームページで公開する予定としております。以上をもちまして、令和2年度第1回小松島市総合教育会議を閉会したいと存じます。本日は、誠にありがとうございました。